

令和7年度
第9回市政モニターアンケート

「北九州市の生物多様性について」

総務市民局広聴課

目 次

I	調査の概要	1
II	市政モニターの構成	1
III	調査結果	2
1	北九州市の自然環境	2
2	生物多様性について	7
3	北九州市生物多様性戦略	16
4	北九州市の自然環境保全の取組	20
5	響灘ビオトープ	25
6	希少生物の保護・保全及び特定外来生物	33
7	北九州市の自然環境に関する取組等に対するご意見	40
IV	全体考察	42
1	北九州市の自然環境	42
2	生物多様性について	43
3	北九州市生物多様性戦略	43
4	北九州市の自然環境保全の取組	43
5	響灘ビオトープ	44
6	希少生物の保護・保全及び特定外来生物	44

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター１０２人		
回答者数	９０人（回収率８８．２％）		
調査実施日	令和７年１１月４日～令和７年１１月１７日		
実施方法	インターネット調査		
調査実施課	総務市民局広聴課	TEL 093-582-2527	
調査依頼課	環境局ネイチャーポジティブ推進課	TEL 093-582-2239	

II 市政モニターの構成

	合計	男性	女性		合計	男性	女性
全体	102 (100.0%)	44 (43.1%)	58 (56.9%)	区 別			
10歳代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	門司区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
20歳代	6 (5.9%)	4 (3.9%)	2 (2.0%)	小倉北区	21 (20.6%)	11 (10.8%)	10 (9.8%)
30歳代	14 (13.7%)	4 (3.9%)	10 (9.8%)	小倉南区	21 (20.6%)	8 (7.8%)	13 (12.7%)
40歳代	22 (21.6%)	7 (6.9%)	15 (14.7%)	若松区	4 (3.9%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)
50歳代	24 (23.5%)	5 (4.9%)	19 (18.6%)	八幡東区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
60歳代	26 (25.5%)	17 (16.7%)	9 (8.8%)	八幡西区	23 (22.5%)	8 (7.8%)	15 (14.7%)
70歳以上	10 (9.8%)	7 (6.9%)	3 (2.9%)	戸畑区	7 (6.9%)	2 (2.0%)	5 (4.9%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としており、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

※ 年代は令和７年４月１日時点でのものです。

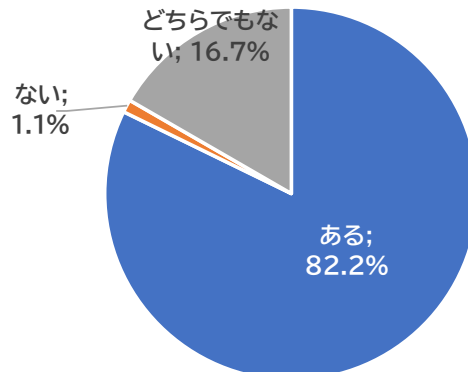
Ⅲ 調査結果

1 北九州市の自然環境

北九州市は、工業を主体とした産業都市として成長し、九州を代表する大都市として発展を遂げてきた都市ですが、三方を響灘、関門海峡、周防灘と特徴の異なる海に囲まれ、市域の約4割を森林が占め、3つの国定・国立公園があるなど、『都市に近接した豊かで面白い生きものや自然（アーバンネイチャー）』にあふれる街です。そこで、北九州市の自然についてお尋ねします。

問1－1 あなたは自然に対して、関心がありますか。

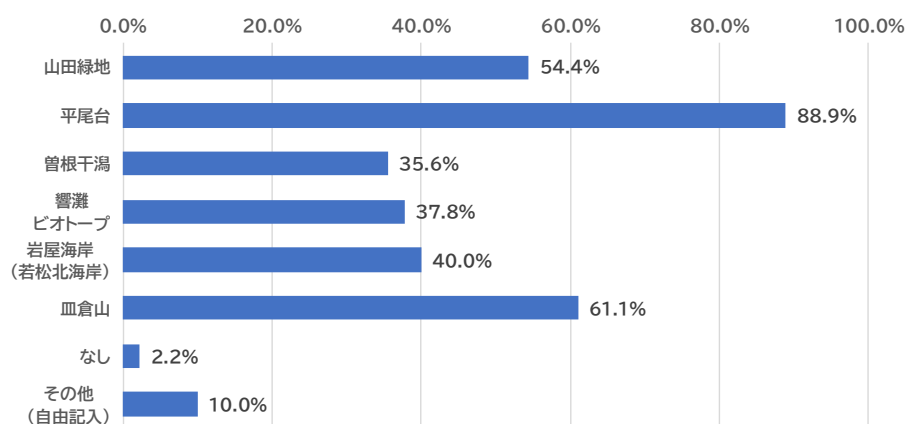
自然に対する関心が「ある」と答えた人が82.2%と最も多く、回答者全体の8割が「関心がある」との回答でした。続いて、「どちらでもない」と答えた人が16.7%、「ない」と答えた人は1.4%でした。「ある」の回答を年齢別にみると、最も多い年齢は20歳代、70歳代、いずれも100.0%でした。一方、最も少ない年齢は40歳代(66.7%)でしたが、それでも6割を超えていました。



		回答者数	ある	ない	どちらでもない
全 体		90	82.2%	1.1%	16.7%
性 別	男性	40	82.5%	2.5%	15.0%
	女性	50	82.0%	0.0%	18.0%
年 齢 別	20 歳代	4	100.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	13	92.3%	0.0%	7.7%
	40 歳代	18	66.7%	5.6%	27.8%
	50 歳代	22	72.7%	0.0%	27.3%
	60 歳代	23	87.0%	0.0%	13.0%
	70 歳代	10	100.0%	0.0%	0.0%
区 別	門司区	12	83.3%	0.0%	16.7%
	小倉北区	20	80.0%	0.0%	20.0%
	小倉南区	17	82.4%	0.0%	17.6%
	若松区	3	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12	91.7%	0.0%	8.3%
	八幡西区	20	85.0%	5.0%	10.0%
	戸畑区	6	50.0%	0.0%	50.0%

問１－２ 北九州市の自然というと、こういった場所を思い浮かべますか。

全体でみると、本市の自然として思い浮かぶ場所は、「平尾台」と答えた人が 88.9%と最も多く、次いで「皿倉山(61.1%)」、「山田緑地(54.4%)」といった結果でした。また、「平尾台」、「山田緑地」は年齢を問わずに上位を占め、北九州市の自然として幅広い世代に認識されていました。「曾根干潟」や「岩屋海岸」は、居住区で最も多い回答が得られる傾向がみられました。その他、「風師山(門司区)」、「菅生の滝(小倉南区)」等の回答がありました。



		回答者数	山田緑地	平尾台	曽根干潟	響灘 ビオトープ	岩屋海岸 (若松北海岸)	皿倉山	なし	その他 (自由記入)
	全体	90	54.4%	88.9%	35.6%	37.8%	40.0%	61.1%	2.2%	10.0%
性別	男性	40	47.5%	85.0%	37.5%	45.0%	37.5%	47.5%	2.5%	15.0%
	女性	50	60.0%	92.0%	34.0%	32.0%	42.0%	72.0%	2.0%	6.0%
年齢別	20 歳代	4	75.0%	100.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	13	84.6%	92.3%	23.1%	46.2%	23.1%	61.5%	0.0%	7.7%
	40 歳代	18	38.9%	77.8%	11.1%	22.2%	27.8%	55.6%	0.0%	11.1%
	50 歳代	22	54.5%	100.0%	36.4%	40.9%	54.5%	86.4%	0.0%	4.5%
	60 歳代	23	52.2%	91.3%	60.9%	47.8%	56.5%	73.9%	0.0%	13.0%
	70 歳代	10	40.0%	70.0%	40.0%	30.0%	10.0%	10.0%	20.0%	20.0%
区別	門司区	12	33.3%	83.3%	50.0%	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%
	小倉北区	20	70.0%	95.0%	45.0%	35.0%	25.0%	55.0%	0.0%	10.0%
	小倉南区	17	76.5%	100.0%	64.7%	47.1%	29.4%	52.9%	0.0%	5.9%
	若松区	3	33.3%	100.0%	33.3%	33.3%	100.0%	66.7%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12	41.7%	75.0%	16.7%	50.0%	50.0%	91.7%	0.0%	25.0%
	八幡西区	20	35.0%	80.0%	10.0%	15.0%	60.0%	65.0%	10.0%	0.0%
	戸畑区	6	83.3%	100.0%	16.7%	50.0%	50.0%	83.3%	0.0%	0.0%

【参考】自由記入の回答

<緑地・公園・自然観察施設>

和布刈公園(1)、夜宮公園(1)、高炉台公園(1)、水環境館(1)

<海・海岸・島>

関門海峡(2)、洞海湾(1)、響灘(1)、青浜海岸線(1)、空港連絡橋(1)

<川・滝>

菅生の滝(3)

<貯水池・池>

河内貯水池(1)、畑貯水池(1)、鱒淵ダム(1)

<山>

風師山(3)、足立山(2)、福知山(1)、石峰山(1)、戸ノ上山(1)、合馬(1)

<花>

紫川の桜(1)、志井川の桜(1)、貫川の桜(1)

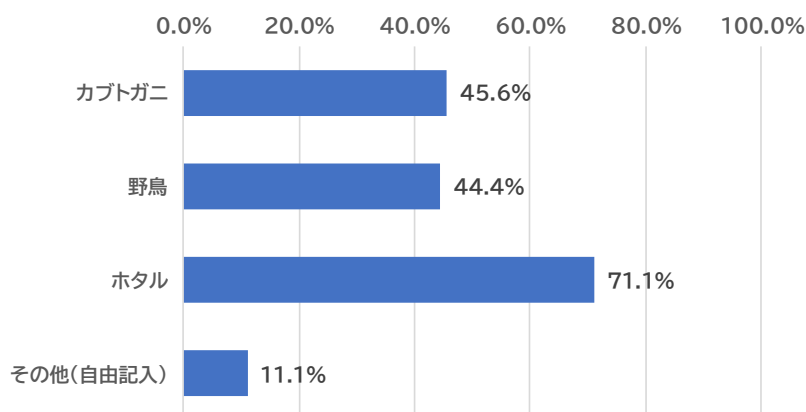
<その他>

千仏鍾乳洞(1)

() 内の数値は回答者数

問1－3 北九州市の自然というと、どのような生きものを思い浮かべますか。

北九州市の自然について思い浮かべる生きものとして、最も多い回答があったのは「ホタル(71.1%)」でした。次いで、「カブトガニ(45.6%)」、「野鳥(44.4%)」という結果となりました。「ホタル」はほぼ全世代で多くの回答がありました。「カブトガニ」と「野鳥」は、曾根干潟がある小倉南区の回答が多い傾向が見られました。その他(自由記入)では、「タコ」、「カレイ」、「クロダイ」といった、魚介類の回答がよく見られました。



		回答者数	カブトガニ	野鳥	ホタル	その他 (自由記入)
全体		90	45.6%	44.4%	71.1%	11.1%
性別	男性	40	42.5%	45.0%	55.0%	20.0%
	女性	50	48.0%	44.0%	84.0%	4.0%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	75.0%	100.0%	0.0%
	30 歳代	13	38.5%	61.5%	76.9%	0.0%
	40 歳代	18	27.8%	16.7%	83.3%	5.6%
	50 歳代	22	54.5%	40.9%	72.7%	13.6%
	60 歳代	23	56.5%	60.9%	65.2%	13.0%
	70 歳代	10	50.0%	30.0%	40.0%	30.0%
区別	門司区	12	66.7%	25.0%	58.3%	16.7%
	小倉北区	20	40.0%	35.0%	70.0%	20.0%
	小倉南区	17	76.5%	64.7%	47.1%	0.0%
	若松区	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
	八幡東区	12	33.3%	58.3%	83.3%	16.7%
	八幡西区	20	25.0%	35.0%	90.0%	10.0%
	戸畑区	6	33.3%	83.3%	83.3%	0.0%

問１－４ 北九州市の自然というと、場所・生きもののほかに何を思い浮かべますか。（自由回答）※主な回答を抜粋

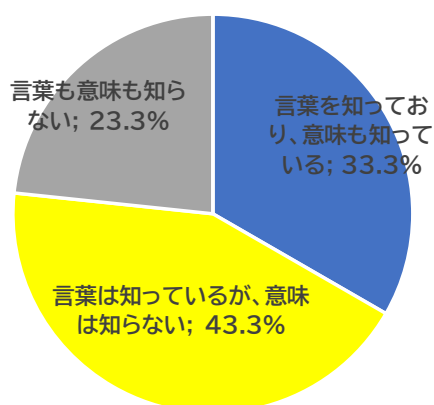
<p><自然></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関門海峡 ・海と山どちらも近くにある ・３つの海に囲まれた立地 ・カルスト大地 ・鍾乳洞 ・滝 ・川 ・美しい海岸線 ・山岳 ・足立山 ・貫山 <p><食べ物・特産品・自然の恵み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海が近く魚介が美味しい ・寿司 ・タケノコ、しいのみ、やまいも、など ・ぬか床 <p><緑地・公園・自然観察施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安部山公園(桜) ・到津の森公園 ・緑、花などきれいに整備されている公園 <p><気候・気象・大気></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気 ・星空 ・気候(瀬戸内海型と日本海型の気候が混在する独特な観) <p><景観></p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節折々の景色が綺麗な場所が多い ・朝日と夕陽の素晴らしさ ・綺麗な朝焼け、夕焼け ・夜景の美しい所が多い 	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコ ・環境(安心・安全) ・自然環境の改善 ・船、マリンスポーツ ・特になし
---	---

2 生物多様性について

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。そこで、生物多様性についてお尋ねします。

問2－1 「生物多様性」という言葉や意味を知っていますか。

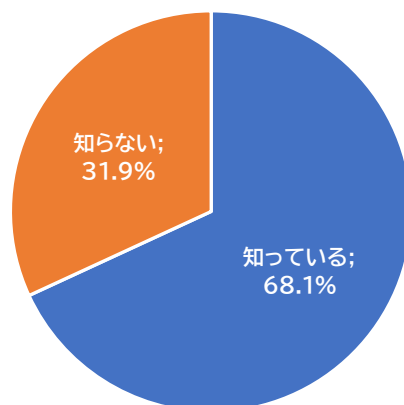
「言葉を知っており、意味も知っている」と回答した人が 33.3%、「言葉は知っているが、意味は知らない」と答えた人が 43.3%であり、言葉を知っていると回答した人が合わせて 76.6%と全体の3/4を超え、少なくとも「生物多様性」という言葉は広く市民に浸透している傾向がみられました。一方、「言葉も意味も知らない」と回答した人は、30 歳代～60 歳代で約2割程度でした(70 歳代では約 4 割)。



		回答者数	言葉を知っており、意味も知っている	言葉は知っているが、意味は知らない	言葉も意味も知らない
全体		90	33.3%	43.3%	23.3%
性別	男性	40	42.5%	30.0%	27.5%
	女性	50	26.0%	54.0%	20.0%
年齢別	20 歳代	4	75.0%	25.0%	0.0%
	30 歳代	13	38.5%	38.5%	23.1%
	40 歳代	18	22.2%	55.6%	22.2%
	50 歳代	22	27.3%	50.0%	22.7%
	60 歳代	23	47.8%	30.4%	21.7%
	70 歳代	10	10.0%	50.0%	40.0%
区別	門司区	12	25.0%	50.0%	25.0%
	小倉北区	20	35.0%	45.0%	20.0%
	小倉南区	17	35.3%	41.2%	23.5%
	若松区	3	33.3%	33.3%	33.3%
	八幡東区	12	41.7%	33.3%	25.0%
	八幡西区	20	35.0%	40.0%	25.0%
	戸畑区	6	16.7%	66.7%	16.7%

問2－2 問2－1で「3 言葉も意味も知らない」以外を選択した方にお尋ねします。生物多様性の重要性を知っていますか。

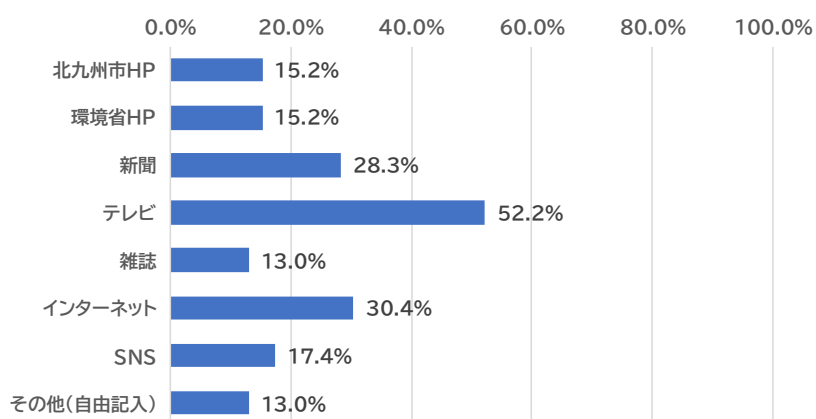
生物多様性の重要性を「知っている」と答えた人は、回答者全体の68.1%でした。年齢別にみると、ほとんどの世代で、「知っている」と回答した人の方が多く、70歳代のみ、「知らない」と回答した人が多い結果となりました。



		回答者数	知っている	知らない
全体		69	68.1%	31.9%
性別	男性	29	75.9%	24.1%
	女性	40	62.5%	37.5%
年齢別	20歳代	4	100.0%	0.0%
	30歳代	10	70.0%	30.0%
	40歳代	14	57.1%	42.9%
	50歳代	17	64.7%	35.3%
	60歳代	18	83.3%	16.7%
	70歳代	6	33.3%	66.7%
区別	門司区	9	55.6%	44.4%
	小倉北区	16	75.0%	25.0%
	小倉南区	13	76.9%	23.1%
	若松区	2	100.0%	0.0%
	八幡東区	9	77.8%	22.2%
	八幡西区	15	60.0%	40.0%
	戸畑区	5	40.0%	60.0%

問2－3 問2－2で「知っている」を選択した方にお尋ねします。生物多様性の重要性を、どのように知りましたか。

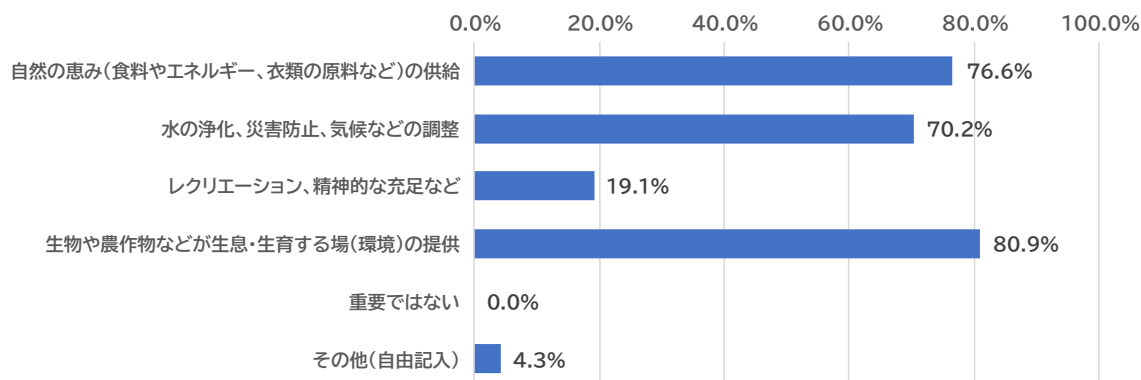
生物多様性の重要性を「テレビ」で知ったと答えた人が最も多く(52.2%)、回答者の約半数にも達していました。次いで「インターネット(30.4%)」、「新聞(28.3%)」という結果でした。一方、「北九州市 HP(15.2%)」や「環境省 HP(15.2%)」と、国や自治体のホームページと回答する人は少なく、「インターネット」を利用する人は比較的多いが、国や自治体のホームページがあまり活用されていない状況と言えます。その他(自由記入)では、「(学校の)授業」、「環境首都検定」等の回答がありました。



		回答者数	北九州市HP	環境省HP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	SNS	その他(自由記入)
全体		46	15.2%	15.2%	28.3%	52.2%	13.0%	30.4%	17.4%	13.0%
性別	男性	22	0.0%	9.1%	36.4%	50.0%	18.2%	45.5%	18.2%	13.6%
	女性	24	29.2%	20.8%	20.8%	54.2%	8.3%	16.7%	16.7%	12.5%
年齢別	20歳代	4	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	30歳代	7	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	0.0%	42.9%	14.3%	28.6%
	40歳代	7	28.6%	14.3%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	11	18.2%	18.2%	36.4%	36.4%	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%
	60歳代	15	13.3%	20.0%	33.3%	66.7%	26.7%	40.0%	26.7%	6.7%
	70歳代	2	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%
区別	門司区	5	20.0%	40.0%	20.0%	100.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	12	16.7%	0.0%	33.3%	58.3%	16.7%	41.7%	16.7%	0.0%
	小倉南区	10	20.0%	10.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%
	若松区	2	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6	0.0%	16.7%	50.0%	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%
	八幡西区	9	11.1%	33.3%	11.1%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	55.6%
	戸畑区	2	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問2-4 問2-2で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。生物多様性の重要性は、何だと思えますか。

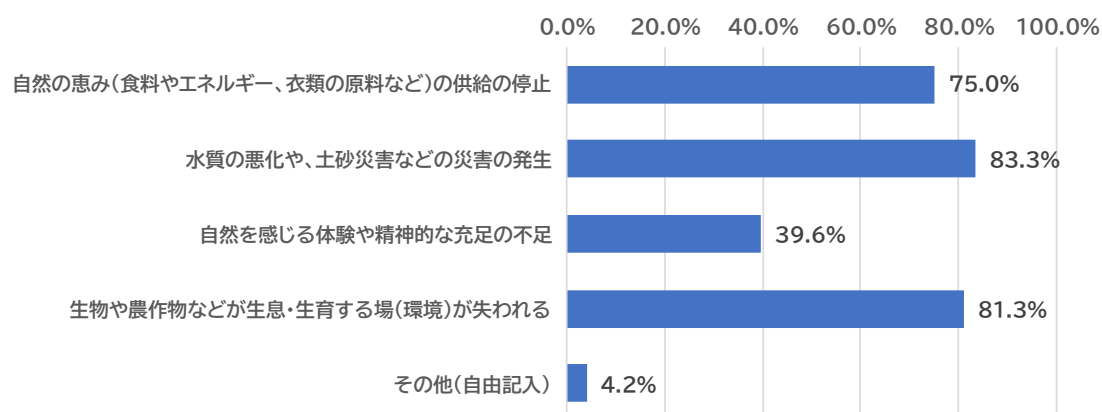
生物多様性の重要性について、最も多い回答は「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)の提供」(80.9%)でした。このほか、「自然の恵みの供給(76.6%)」、「水の浄化、災害防止、気候などの調整(70.2%)」といった回答が多く見られました。



		回答者数	自然の恵み (食料やエネルギー、衣類の原料など)の供給	水の浄化、 災害防止、 気候などの調整	レクリエーション、精神的な充足など	生物や農作物などが生息・生育する場(環境)の提供	重要ではない	その他 (自由記入)
全体		47	76.6%	70.2%	19.1%	80.9%	0.0%	4.3%
性別	男性	22	86.4%	72.7%	18.2%	86.4%	0.0%	9.1%
	女性	25	68.0%	68.0%	20.0%	76.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20歳代	4	75.0%	75.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	7	71.4%	71.4%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%
	40歳代	8	50.0%	50.0%	12.5%	50.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	11	90.9%	72.7%	9.1%	90.9%	0.0%	0.0%
	60歳代	15	80.0%	80.0%	20.0%	93.3%	0.0%	13.3%
	70歳代	2	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	5	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	12	75.0%	66.7%	25.0%	91.7%	0.0%	8.3%
	小倉南区	10	90.0%	70.0%	20.0%	70.0%	0.0%	0.0%
	若松区	2	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	7	71.4%	42.9%	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%
	八幡西区	9	77.8%	100.0%	22.2%	77.8%	0.0%	11.1%
	戸畑区	2	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%

問2-5 問2-2で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。生物多様性が失われると、何が起これると思いますか。

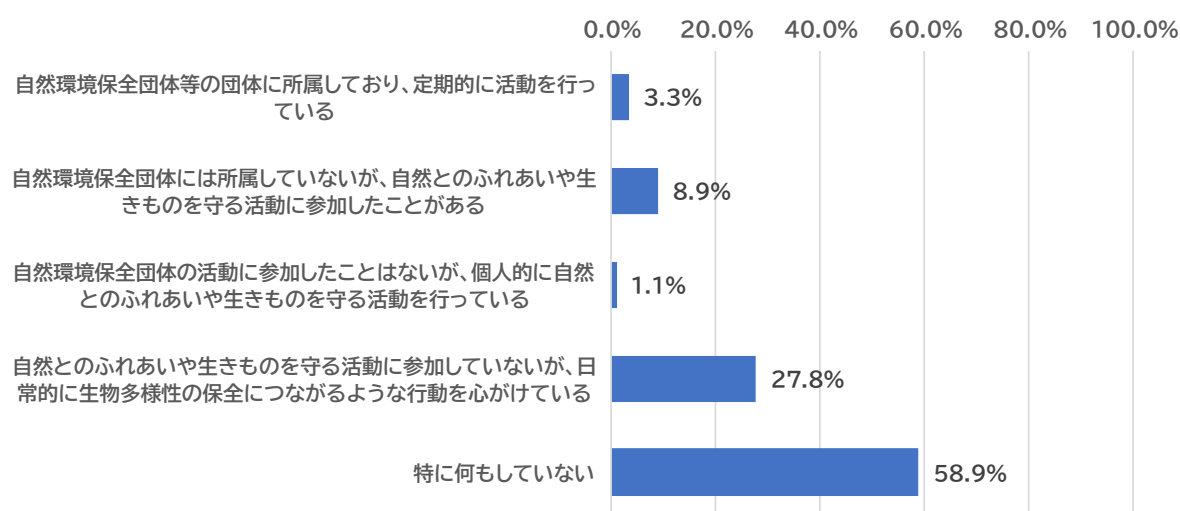
生物多様性が失われると、「水質の悪化や、土砂災害などの災害の発生(83.3%)」と回答した人が最も多く、次いで、「生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる(81.3%)」と回答した人が多く見られました。このほか、「自然の恵みの供給の停止(75.0%)」が多く、問2-3と同じような回答の傾向が見られました。



		回答者数	自然の恵み(食料やエネルギー、衣類の原料など)の供給の停止	水質の悪化や、土砂災害などの災害の発生	自然を感じる体験や精神的な充足の不足	生物や農作物などが生息・生育する場(環境)が失われる	その他(自由記入)
全体		48	75.0%	83.3%	39.6%	81.3%	4.2%
性別	男性	23	78.3%	82.6%	34.8%	91.3%	8.7%
	女性	25	72.0%	84.0%	44.0%	72.0%	0.0%
年齢別	20歳代	4	75.0%	75.0%	25.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	7	42.9%	100.0%	28.6%	71.4%	14.3%
	40歳代	9	66.7%	66.7%	11.1%	44.4%	0.0%
	50歳代	11	100.0%	90.9%	45.5%	90.9%	0.0%
	60歳代	14	71.4%	85.7%	57.1%	92.9%	7.1%
	70歳代	3	100.0%	66.7%	66.7%	100.0%	0.0%
区別	門司区	7	42.9%	71.4%	0.0%	71.4%	0.0%
	小倉北区	12	58.3%	66.7%	33.3%	91.7%	8.3%
	小倉南区	10	80.0%	100.0%	70.0%	80.0%	10.0%
	若松区	1	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	7	100.0%	85.7%	57.1%	71.4%	0.0%
	八幡西区	9	88.9%	100.0%	33.3%	88.9%	0.0%
	戸畑区	2	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%

問２－６ 自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加していますか。

自然とのふれあいや生きものを守る活動への参加について、最も多い回答は「特に何もしていない(58.9%)」と回答者の半数以上でした。一方、活動を行っている人で、最も多かった回答は「自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加していないが、日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけている(27.8%)」と、約３割の回答者が日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけていました。

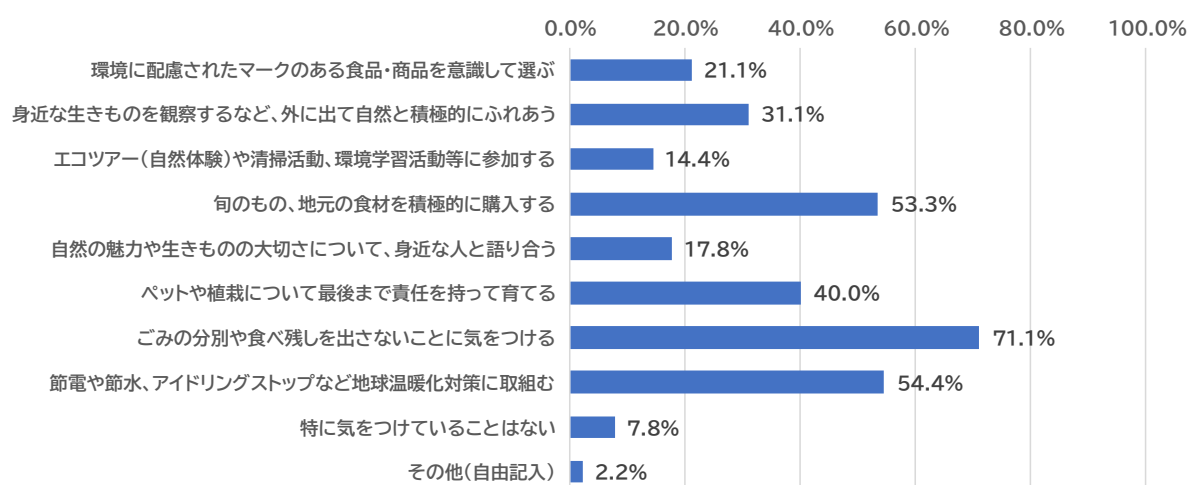


		回答者数	自然環境保全団体等の団体に所属しており、定期的に活動を行っている	自然環境保全団体には所属していないが、自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したことがある	自然環境保全団体の活動に参加したことはないが、個人的に自然とのふれあいや生きものを守る活動を行っている	自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加していないが、日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけている	特に何もしていない
全体		90	3.3%	8.9%	1.1%	27.8%	58.9%
性別	男性	40	5.0%	12.5%	0.0%	17.5%	65.0%
	女性	50	2.0%	6.0%	2.0%	36.0%	54.0%
年齢別	20歳代	4	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%
	30歳代	13	7.7%	15.4%	0.0%	15.4%	61.5%
	40歳代	18	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
	50歳代	22	4.5%	9.1%	4.5%	36.4%	45.5%
	60歳代	23	4.3%	4.3%	0.0%	34.8%	56.5%
	70歳代	10	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	70.0%
区別	門司区	12	8.3%	0.0%	0.0%	33.3%	58.3%
	小倉北区	20	5.0%	5.0%	0.0%	35.0%	55.0%
	小倉南区	17	0.0%	11.8%	0.0%	23.5%	64.7%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	12	0.0%	16.7%	0.0%	25.0%	58.3%
	八幡西区	20	0.0%	15.0%	5.0%	35.0%	45.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%

問２－７ 生物多様性の保全につながる行動として、日常的にどのようなことに気を付けていますか（複数回答可）。

生物多様性の保全につながる日常的な行動として、最も多かった回答は「自然や生きものについて、身近な人と話し合う（71.1%）」でした。次いで「生きものを最後まで責任を持って飼育する（54.4%）」、「節電や節水、アイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む（53.3%）」と回答した人が多い結果でした。

年齢別にみると、特徴的なところでは、20歳代～30歳代では、「環境に配慮されたマークのある食品・商品を意識して選ぶ」、「エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加する」いずれも0.0%でした。また、70歳代では、「特に気を付けることはない」が20.0%と、他の年代に比べると高い割合となっていました。



		回答者数	環境に配慮されたマークのある食品・商品を意識して選ぶ	身近な生きものを観察するなど、外に出て自然と積極的にふれあう	エコツアー（自然体験）や清掃活動、環境学習活動等に参加する	旬のもの、地元の食材を積極的に購入する	自然の魅力や生きもの大切さについて、身近な人と語り合う
全体		90	21.1%	31.1%	14.4%	53.3%	17.8%
性別	男性	40	12.5%	27.5%	12.5%	40.0%	7.5%
	女性	50	28.0%	34.0%	16.0%	64.0%	26.0%
年齢別	20歳代	4	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%
	30歳代	13	0.0%	23.1%	0.0%	69.2%	15.4%
	40歳代	18	27.8%	27.8%	11.1%	55.6%	11.1%
	50歳代	22	31.8%	22.7%	22.7%	54.5%	18.2%
	60歳代	23	21.7%	52.2%	8.7%	56.5%	26.1%
	70歳代	10	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	10.0%
区別	門司区	12	25.0%	25.0%	33.3%	58.3%	0.0%
	小倉北区	20	20.0%	25.0%	10.0%	55.0%	25.0%
	小倉南区	17	17.6%	41.2%	23.5%	64.7%	17.6%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	八幡東区	12	25.0%	41.7%	8.3%	50.0%	16.7%
	八幡西区	20	25.0%	40.0%	5.0%	50.0%	30.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%

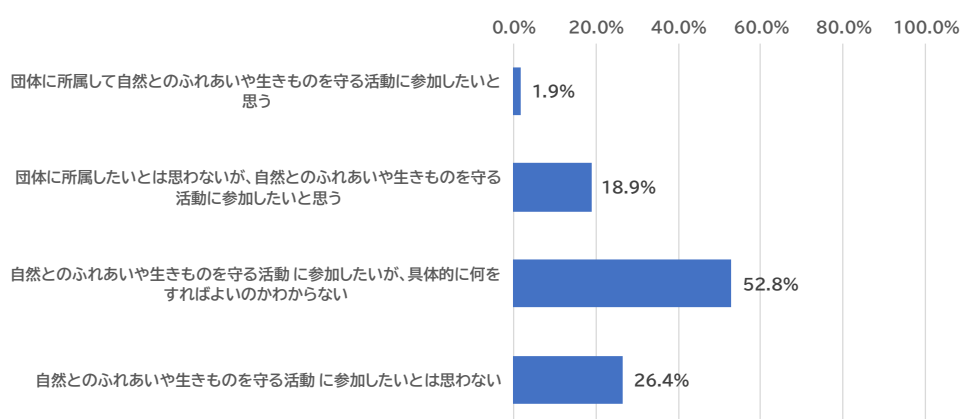
		回答者数	ペットや植栽について最後まで責任を持って育てる	ごみの分別や食べ残しを出さないことに気をつける	節電や節水、アイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	特に気を付けていることはない	その他 (自由記入)
全体		90	40.0%	71.1%	54.4%	7.8%	2.2%
性別	男性	40	32.5%	60.0%	45.0%	15.0%	5.0%
	女性	50	46.0%	80.0%	62.0%	2.0%	0.0%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	13	30.8%	76.9%	46.2%	0.0%	0.0%
	40 歳代	18	50.0%	61.1%	50.0%	5.6%	0.0%
	50 歳代	22	31.8%	72.7%	54.5%	9.1%	4.5%
	60 歳代	23	52.2%	69.6%	60.9%	8.7%	4.3%
	70 歳代	10	30.0%	80.0%	50.0%	20.0%	0.0%
区別	門司区	12	58.3%	66.7%	50.0%	8.3%	0.0%
	小倉北区	20	20.0%	70.0%	55.0%	10.0%	0.0%
	小倉南区	17	47.1%	70.6%	52.9%	0.0%	0.0%
	若松区	3	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12	41.7%	83.3%	66.7%	8.3%	8.3%
	八幡西区	20	45.0%	70.0%	45.0%	15.0%	0.0%
	戸畑区	6	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%

【参考】自由記入の主な回答

- ・ エコツアーとは違うが環境保全に関連する活動に参加したことがある。
- ・ 電気自動車に乗っている。

問2－8 問2－6で「5 特に何もしていない」を選択した方にお尋ねします。
自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいと思いますか

生物多様性の保全につながる活動を行っていない人に活動への参加についての設問には、「自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいが、具体的に何をすればよいのかわからない(52.8%)」と答えた人が最も多く、約半数に達していました。次いで、「生物多様性の保全につながる活動を行いたいとは思わない」と回答した人が多く、全回答者の約1/4(26.4%)でした。一方、「団体に所属して生物多様性の保全につながる活動を行いたいと思う」と答える人が1.9%と少なく、年齢も70歳代のみでした。



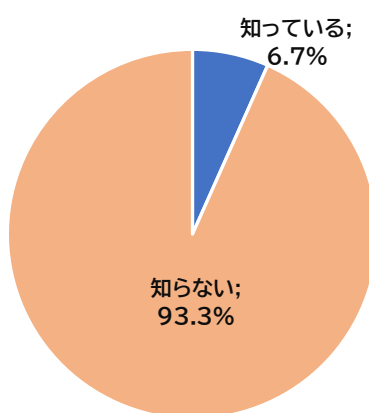
		回答者数	団体に所属して自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいと思う	団体に所属したいとは思わないが、自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいと思う	自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいが、具体的に何をすればよいのかわからない	自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加したいとは思わない
全体		53	1.9%	18.9%	52.8%	26.4%
性別	男性	26	0.0%	11.5%	57.7%	30.8%
	女性	27	3.7%	25.9%	48.1%	22.2%
年齢別	20歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	30歳代	8	0.0%	12.5%	50.0%	37.5%
	40歳代	12	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
	50歳代	10	0.0%	30.0%	20.0%	50.0%
	60歳代	13	0.0%	7.7%	76.9%	15.4%
	70歳代	7	14.3%	14.3%	42.9%	28.6%
区別	門司区	7	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%
	小倉北区	11	0.0%	9.1%	63.6%	27.3%
	小倉南区	11	0.0%	27.3%	45.5%	27.3%
	若松区	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
	八幡東区	7	0.0%	14.3%	71.4%	14.3%
	八幡西区	9	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%
	戸畑区	5	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%

3 北九州市生物多様性戦略

北九州市では、生物多様性に関する国内外の動向を踏まえ、令和7年5月に、「北九州市生物多様性戦略 2025-2030」を策定しました。

問3-1 あなたは、北九州市の生物多様性戦略を知っていますか。

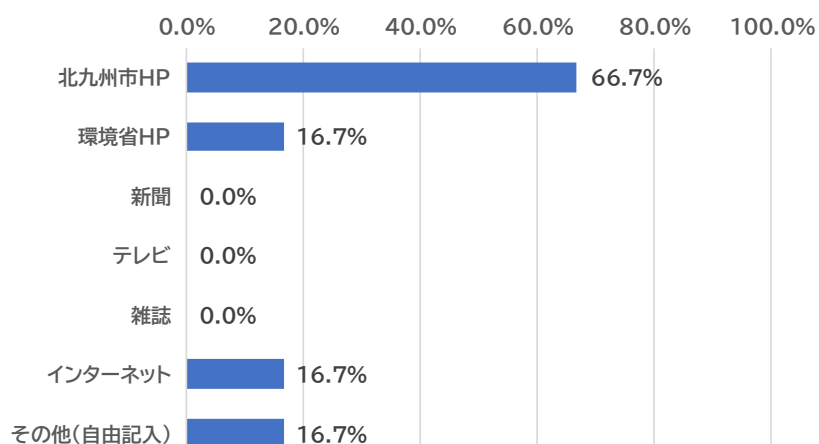
北九州市生物多様性戦略を「知っている」と答えた人は6.7%と少数で、全体の1割未満でした。また、「知っている」と回答した人は、30歳代、50歳代、60歳の年齢でした。



		回答者数	知っている	知らない
性別	全体	90	6.7%	93.3%
	男性	40	7.5%	92.5%
	女性	50	6.0%	94.0%
年齢別	20歳代	4	0.0%	100.0%
	30歳代	13	7.7%	92.3%
	40歳代	18	0.0%	100.0%
	50歳代	22	9.1%	90.9%
	60歳代	23	13.0%	87.0%
	70歳代	10	0.0%	100.0%
区別	門司区	12	0.0%	100.0%
	小倉北区	20	0.0%	100.0%
	小倉南区	17	5.9%	94.1%
	若松区	3	0.0%	100.0%
	八幡東区	12	25.0%	75.0%
	八幡西区	20	5.0%	95.0%
	戸畑区	6	16.7%	83.3%

問3—2 問3—1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。北九州市の生物多様性戦略をどのように知りましたか（複数回答可）。

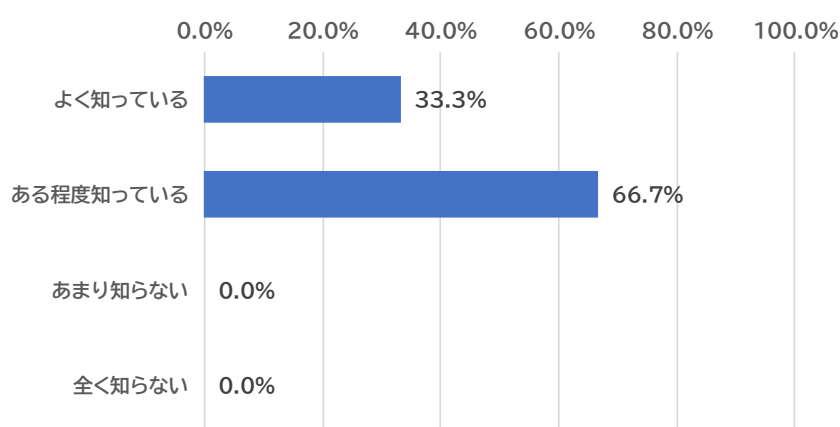
北九州市生物多様性戦略を知っていると回答した人に対し、この戦略を知った方法について質問したところ、最も多い回答は「北九州市のホームページ」でした(66.7%)。このほか、環境省のホームページ(16.7%)、インターネット(16.7%)があがっていました。その他(自由記入)では、「市政だより」等の回答がありました。



		回答者数	北九州市HP	環境省HP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	その他(自由記入)
全体		6	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%
性別	男性	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
	女性	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	20 歳代	0	-	-	-	-	-	-	-
	30 歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40 歳代	0	-	-	-	-	-	-	-
	50 歳代	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	60 歳代	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	70 歳代	0	-	-	-	-	-	-	-
区別	門司区	0	-	-	-	-	-	-	-
	小倉北区	0	-	-	-	-	-	-	-
	小倉南区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0	-	-	-	-	-	-	-
	八幡東区	3	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
	八幡西区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問3—3 問3—1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。北九州市の生物多様性戦略の内容を知っていますか。

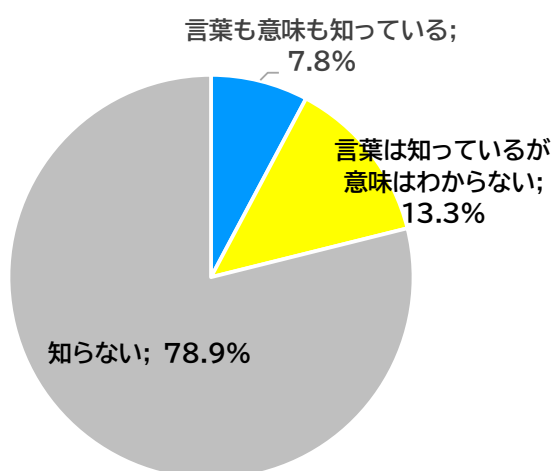
北九州市生物多様性戦略を知っていると回答した人に対し、この戦略の内容について質問したところ、「よく知っている(33.3%)」、「ある程度知っている(66.7%)」と回答があり、「あまり知らない」、「全く知らない」といった回答はありませんでした。
北九州市の生物多様性戦略を目にした市民は、内容まで目を通していただいていることがわかりました。



		回答者数	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	全く知らない
全体		6	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
性別	男性	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	女性	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
年齢別	20 歳代	0	-	-	-	-
	30 歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	40 歳代	0	-	-	0.0%	0.0%
	50 歳代	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	70 歳代	0	-	-	-	-
区別	門司区	0	-	-	-	-
	小倉北区	0	-	-	-	-
	小倉南区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	若松区	0	-	-	-	-
	八幡東区	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問３－４ 北九州市生物多様性戦略 2025-2030 では、世界的な流れとなっている「生物多様性の損失を止め、反転させることで自然を回復軌道にのせる」、いわゆる「ネイチャーポジティブ」を目指し、様々な取組を推進しています。あなたは、「ネイチャーポジティブ」を知っていますか。

ネイチャーポジティブについて質問したところ、最も多い回答は「知らない(78.9%)」で、全体の約8割に及んでいました。一方、「言葉も意味も知っている」との回答は、全体の 7.8% でした。
「ネイチャーポジティブ」については、まだ一般に浸透していないことがわかった結果となりました。



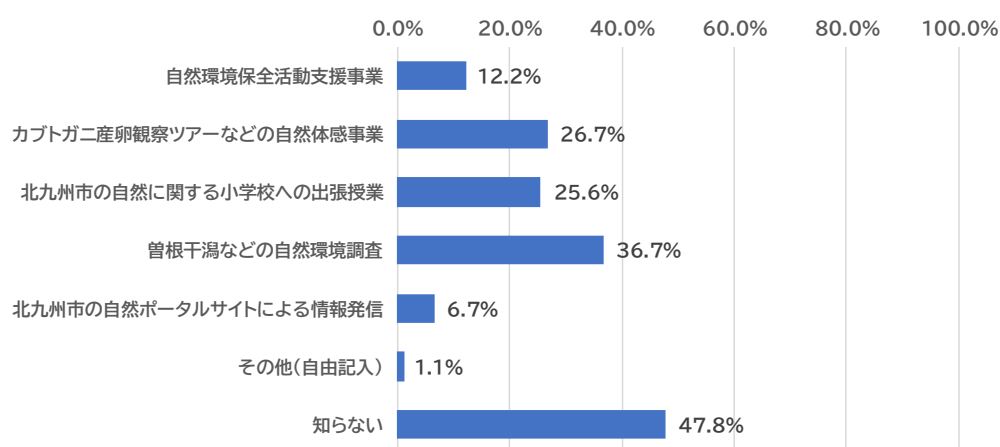
		回答者数	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味はわからない	知らない
全体		90	7.8%	13.3%	78.9%
性別	男性	40	10.0%	2.5%	87.5%
	女性	50	6.0%	22.0%	72.0%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	100.0%
	30 歳代	13	0.0%	23.1%	76.9%
	40 歳代	18	0.0%	11.1%	88.9%
	50 歳代	22	9.1%	18.2%	72.7%
	60 歳代	23	21.7%	13.0%	65.2%
	70 歳代	10	0.0%	0.0%	100.0%
区別	門司区	12	0.0%	8.3%	91.7%
	小倉北区	20	0.0%	15.0%	85.0%
	小倉南区	17	0.0%	29.4%	70.6%
	若松区	3	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	12	25.0%	0.0%	75.0%
	八幡西区	20	15.0%	15.0%	70.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	83.3%

4 北九州市の自然環境保全の取組

北九州市では、生物多様性戦略を推進するために、市民参加型イベントや自然とふれあい、生きものを守る活動の情報発信、曽根干潟などの北九州市を代表する自然環境の現状を把握するための環境調査など、様々な取組を行っています。

問4－1 北九州市での自然環境の保全に関する取組のうち、知っているものを以下から選択してください（複数回答可）。

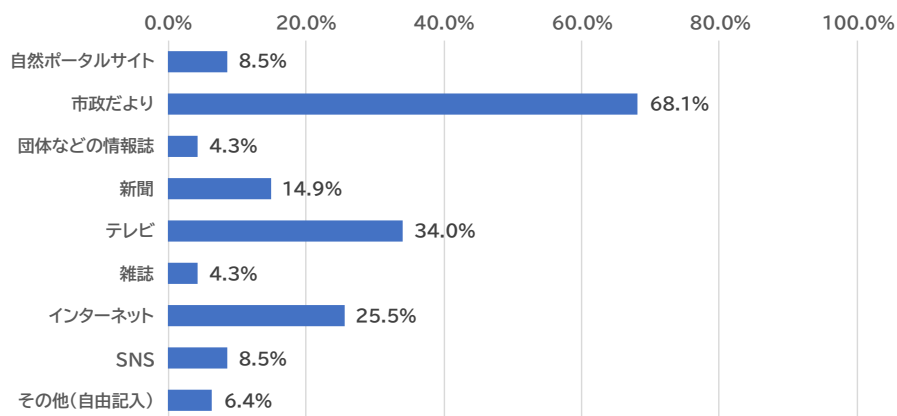
北九州市が行っている自然環境保全の取組について質問したところ、最も多い回答は「知らない(47.8%)」でした。「知らない」との回答を年代別にみると、20歳代～40歳代、70歳代で半数を超えていましたが、60歳代では約30%程度と最も低くなっていました。「知らない」以外の回答をみると、「曽根干潟などの自然環境調査」、「カブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業」、「北九州市の自然に関する小学校への出張授業」等の回答が多くみられました。その他(自由記入)では、「北九州市アーバンネイチャーフォトコンテスト」の回答がありました。



		回答者数	自然環境保全活動支援事業	カブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業	北九州市の自然に関する小学校への出張授業	曽根干潟などの自然環境調査	北九州市の自然ポータルサイトによる情報発信	その他（自由記入）	知らない
全体		90	12.2%	26.7%	25.6%	36.7%	6.7%	1.1%	47.8%
性別	男性	40	17.5%	27.5%	22.5%	30.0%	7.5%	2.5%	50.0%
	女性	50	8.0%	26.0%	28.0%	42.0%	6.0%	0.0%	46.0%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	30 歳代	13	15.4%	15.4%	23.1%	15.4%	7.7%	0.0%	53.8%
	40 歳代	18	5.6%	11.1%	27.8%	22.2%	5.6%	0.0%	61.1%
	50 歳代	22	9.1%	31.8%	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	45.5%
	60 歳代	23	21.7%	52.2%	34.8%	43.5%	8.7%	4.3%	30.4%
	70 歳代	10	10.0%	10.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	60.0%
区別	門司区	12	8.3%	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	小倉北区	20	0.0%	20.0%	15.0%	20.0%	0.0%	0.0%	70.0%
	小倉南区	17	11.8%	35.3%	35.3%	47.1%	5.9%	5.9%	23.5%
	若松区	3	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
	八幡東区	12	41.7%	33.3%	41.7%	50.0%	33.3%	0.0%	25.0%
	八幡西区	20	10.0%	20.0%	30.0%	40.0%	5.0%	0.0%	55.0%
	戸畑区	6	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%

問4－2 問4－1で「7 知らない」以外を選択した方にお尋ねします。北九州市の自然環境に関する取組を、どこで知りましたか（複数回答可）。

北九州市の自然環境保全に関する取組について知っていると回答された方々に、どこで知ったかという質問に対し、最も多かった回答は「市政だより」でした（68.1%）。「市政だより」は幅広く全ての年齢で読まれており、最も少ない20歳代でも50%と半数を占めていました。このほか、「テレビ」、「インターネット」等の回答が多く見られました。その他（自由記入）の回答では、「駅に置かれている案内チラシ」や「響灘ビオトープ等に掲載されているポスター」等があげられていました。

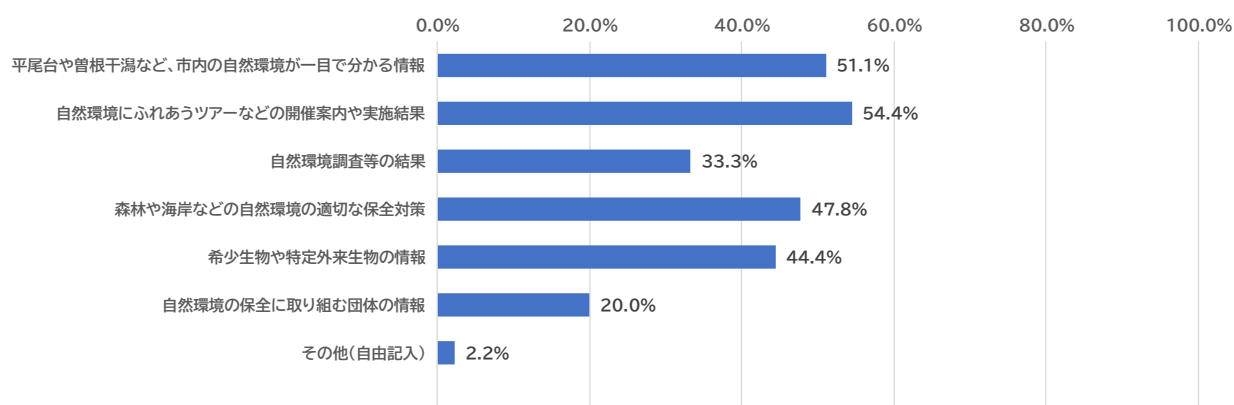


		回答者数	自然ポータルサイト	市政だより	団体などの情報誌	新聞	テレビ
全体		47	8.5%	68.1%	4.3%	14.9%	34.0%
性別	男性	20	5.0%	75.0%	5.0%	25.0%	30.0%
	女性	27	11.1%	63.0%	3.7%	7.4%	37.0%
年齢別	20 歳代	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	30 歳代	6	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	40 歳代	7	0.0%	71.4%	0.0%	14.3%	28.6%
	50 歳代	12	16.7%	58.3%	16.7%	25.0%	25.0%
	60 歳代	16	12.5%	68.8%	0.0%	6.3%	50.0%
	70 歳代	4	0.0%	100.0%	0.0%	25.0%	75.0%
区別	門司区	6	0.0%	66.7%	0.0%	16.7%	66.7%
	小倉北区	6	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	83.3%
	小倉南区	13	7.7%	69.2%	0.0%	7.7%	30.8%
	若松区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	9	11.1%	77.8%	11.1%	22.2%	0.0%
	八幡西区	9	11.1%	55.6%	0.0%	22.2%	22.2%
	戸畑区	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%

		回答者数	雑誌	インターネット	SNS	その他 (自由記入)
全体		90	4.3%	25.5%	8.5%	6.4%
性別	男性	40	0.0%	30.0%	5.0%	5.0%
	女性	50	7.4%	22.2%	11.1%	7.4%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	13	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%
	40 歳代	18	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	50 歳代	22	16.7%	41.7%	16.7%	8.3%
	60 歳代	23	0.0%	25.0%	12.5%	6.3%
	70 歳代	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	12	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	20	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%
	小倉南区	17	7.7%	23.1%	7.7%	15.4%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12	0.0%	22.2%	11.1%	11.1%
	八幡西区	20	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%
	戸畑区	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問４－３ 北九州市の自然環境保全に関する取組や情報について、どのような内容を知りたいですか（複数回答可）。

主な回答は、「自然環境にふれあうツアーなどの開催案内や実施結果(54.4%)」、「平尾台や曽根干潟など、市内の自然環境が一目で分かる情報(51.1%)」、「森林や海岸などの自然環境の適切な保全対策(47.8%)」、「希少生物や特定外来生物の情報(44.4%)」等であり、様々な取組に関心をもたれていることがわかりました。



		回答者数	平尾台や曽根干潟など、市内の自然環境が一目で分かる情報	自然環境にふれあうツアーなどの開催案内や実施結果	自然環境調査等の結果	森林や海岸などの自然環境の適切な保全対策	希少生物や特定外来生物の情報	自然環境の保全に取り組む団体の情報	その他(自由記入)
全体		90	51.1%	54.4%	33.3%	47.8%	44.4%	20.0%	2.2%
性別	男性	40	55.0%	45.0%	35.0%	45.0%	35.0%	15.0%	2.5%
	女性	50	48.0%	62.0%	32.0%	50.0%	52.0%	24.0%	2.0%
年齢別	20歳代	4	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	13	53.8%	76.9%	38.5%	53.8%	38.5%	30.8%	0.0%
	40歳代	18	33.3%	50.0%	44.4%	38.9%	38.9%	5.6%	5.6%
	50歳代	22	45.5%	54.5%	27.3%	59.1%	59.1%	27.3%	4.5%
	60歳代	23	69.6%	52.2%	30.4%	56.5%	47.8%	13.0%	0.0%
	70歳代	10	50.0%	50.0%	40.0%	10.0%	20.0%	30.0%	0.0%
区別	門司区	12	41.7%	50.0%	41.7%	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%
	小倉北区	20	45.0%	40.0%	25.0%	35.0%	45.0%	20.0%	0.0%
	小倉南区	17	58.8%	52.9%	29.4%	52.9%	35.3%	29.4%	0.0%
	若松区	3	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12	58.3%	50.0%	50.0%	66.7%	66.7%	16.7%	0.0%
	八幡西区	20	45.0%	75.0%	35.0%	60.0%	40.0%	25.0%	5.0%
	戸畑区	6	66.7%	66.7%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%

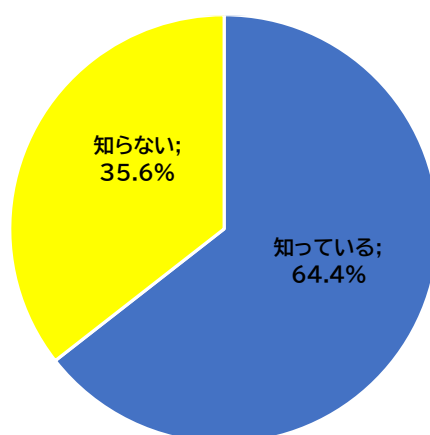
5 響灘ビオトープ

若松区の廃棄物処分場跡地にある「響灘ビオトープ」は、日本最大級のビオトープとして、令和4年10月6日に開園10周年を迎えました。また、令和5年10月に環境省の自然共生サイト、令和6年8月に「生物多様性保全エリア」として国連のデータベース（OECM※）に登録されました。

※OECM：Other Effective area-based Conservation Measures の略 保全地域以外で生物多様性を効果的に保全しうる地域のこと

問5－1 響灘ビオトープについて、知っていますか

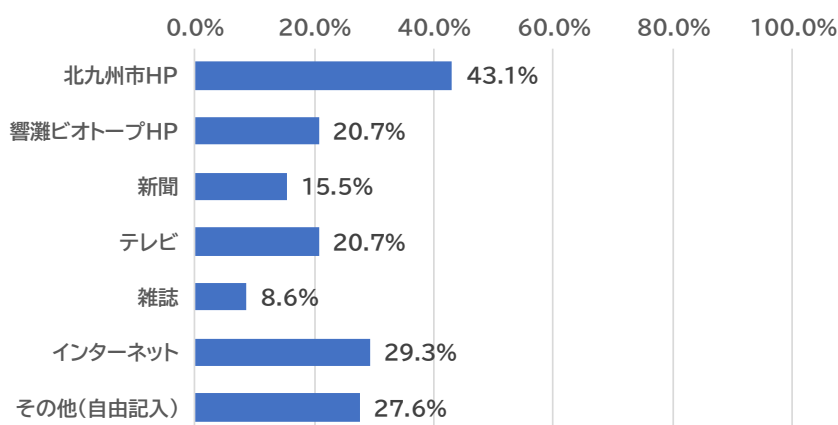
響灘ビオトープを「知っている」と答えた人は全体の64.4%で、全体の半数以上の市民が知っているという結果でした。年齢別にみると、20歳代では「知らない(75.0%)」が多く、3/4を占めていましたが、その他の年代では、「知っている」が多く見られました。区別にみると、小倉北区のみ「知らない」の方が多く、その他の区では、「知っている」が多い結果となりました。



		回答者数	知っている	知らない
全体		90	64.4%	35.6%
性別	男性	40	57.5%	42.5%
	女性	50	70.0%	30.0%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	75.0%
	30 歳代	13	69.2%	30.8%
	40 歳代	18	66.7%	33.3%
	50 歳代	22	68.2%	31.8%
	60 歳代	23	65.2%	34.8%
	70 歳代	10	60.0%	40.0%
区別	門司区	12	75.0%	25.0%
	小倉北区	20	45.0%	55.0%
	小倉南区	17	70.6%	29.4%
	若松区	3	66.7%	33.3%
	八幡東区	12	83.3%	16.7%
	八幡西区	20	60.0%	40.0%
	戸畑区	6	66.7%	33.3%

問5ー2 問5ー1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。響灘ビオトープについて、どのように知りましたか（複数選択可）。

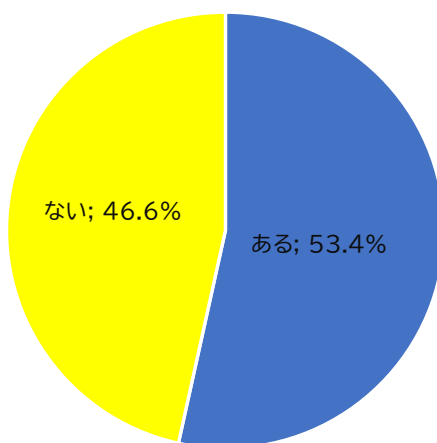
響灘ビオトープの情報源についての質問では、最も多かった回答は「北九州市のホームページ(43.1%)」でした。このほか、「インターネット(29.3%)」、「響灘ビオトープのホームページ(20.7%)」、「テレビ(20.7%)」等の回答がありました。
その他(自由記入)では、「学校で配布されたチラシ」、「社会見学」、「通りがかり」等の回答がありました。



		回答者数	北九州市HP	響灘ビオトープHP	新聞	テレビ	雑誌	インターネット	その他(自由記入)
全体		58	43.1%	20.7%	15.5%	20.7%	8.6%	29.3%	27.6%
性別	男性	23	30.4%	26.1%	21.7%	13.0%	13.0%	34.8%	34.8%
	女性	35	51.4%	17.1%	11.4%	25.7%	5.7%	25.7%	22.9%
年齢別	20歳代	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	9	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%	0.0%	33.3%	33.3%
	40歳代	12	25.0%	25.0%	8.3%	16.7%	8.3%	33.3%	25.0%
	50歳代	15	60.0%	13.3%	20.0%	20.0%	6.7%	33.3%	20.0%
	60歳代	15	40.0%	26.7%	0.0%	33.3%	20.0%	26.7%	26.7%
	70歳代	6	66.7%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	50.0%
区別	門司区	9	44.4%	22.2%	11.1%	33.3%	0.0%	44.4%	22.2%
	小倉北区	9	55.6%	11.1%	22.2%	44.4%	11.1%	33.3%	11.1%
	小倉南区	12	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	8.3%	25.0%	33.3%
	若松区	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	八幡東区	10	30.0%	20.0%	10.0%	0.0%	10.0%	40.0%	30.0%
	八幡西区	12	41.7%	33.3%	8.3%	8.3%	8.3%	25.0%	33.3%
	戸畑区	4	75.0%	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%

問5－3 問5－1で「1 知っている」を選択した方にお尋ねします。響灘ビオトープに行ったことがありますか。

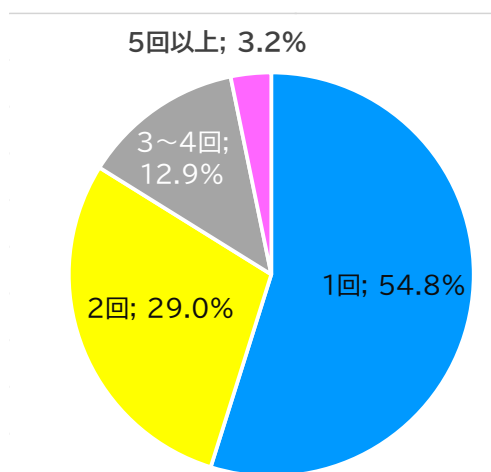
響灘ビオトープを「知っている」と答えた人に、行ったことがあるかとの質問に対し、「行ったことがある」と回答した人は全体の 53.4%で、「行ったことがない」人をやや上回っていました。年齢別にみると、40 歳代、50 歳代では「行ったことがない」方がやや多く、30 歳代、60 歳代、70 歳代では、「行ったことがある」方がやや多い傾向が見られました。区別にみると、響灘ビオトープがある「若松区」は 50%とちょうど半数でした。また、響灘ビオトープに近い戸畑区、小倉北区、八幡東区では、「行ったことがある」人が多い傾向がみられました。



		回答者数	行ったことがある	行ったことがない
性別	全体	58	53.4%	46.6%
	男性	23	60.9%	39.1%
年齢別	女性	35	48.6%	51.4%
	20 歳代	1	0.0%	100.0%
	30 歳代	9	66.7%	33.3%
	40 歳代	12	41.7%	58.3%
	50 歳代	15	40.0%	60.0%
	60 歳代	15	66.7%	33.3%
	70 歳代	6	66.7%	33.3%
区別	門司区	9	44.4%	55.6%
	小倉北区	9	66.7%	33.3%
	小倉南区	12	58.3%	41.7%
	若松区	2	50.0%	50.0%
	八幡東区	10	60.0%	40.0%
	八幡西区	12	33.3%	66.7%
	戸畑区	4	75.0%	25.0%

問5－4 問5－3で「1 ある」を選択した方にお尋ねします。響灘ビオトープを何回訪れたことがありますか。

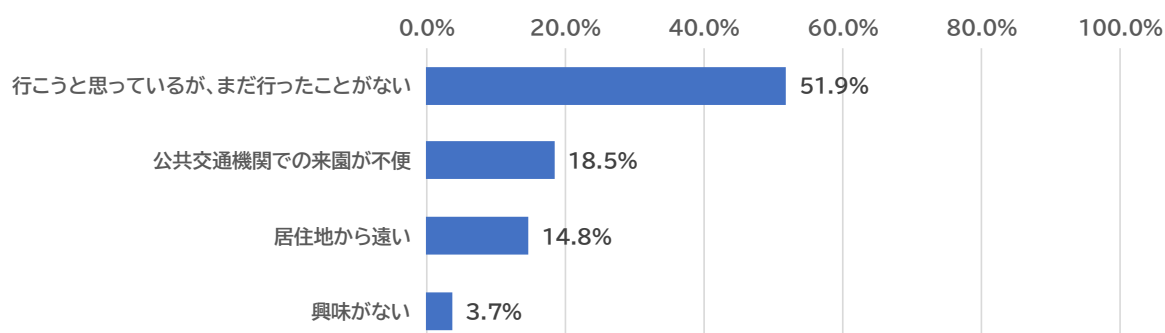
響灘ビオトープに「行ったことがある」と答えた人に、訪れた回数を質問したところ、「1回（54.8%）」と回答した人が最も多く、全体の半数以上を占めていました。一方、5回以上訪れた人は、回答者の3.2%と低く、リピーターが少ないと言えます。



		回答者数	1回	2回	3～4回	5回以上
全体		31	54.8%	29.0%	12.9%	3.2%
性別	男性	14	50.0%	28.6%	14.3%	7.1%
	女性	17	58.8%	29.4%	11.8%	0.0%
年齢別	20歳代	0	-	-	-	-
	30歳代	6	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	40歳代	5	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
	50歳代	6	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	10	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	70歳代	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
区別	門司区	4	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	小倉北区	6	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	7	57.1%	28.6%	0.0%	14.3%
	若松区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	八幡西区	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

問5－5 問5－3で「2 ない」を選択した方にお尋ねします。響灘ビオトープに行ったことがない理由は何ですか。

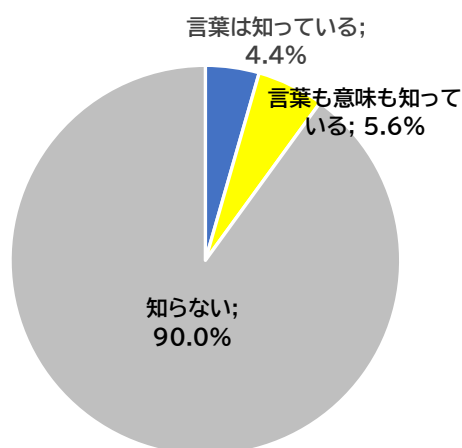
響灘ビオトープに「行ったことがない」と答えた人に、その理由を質問したところ、「行こうと思っているが、まだ行ったことがない(51.9%)」と回答した人が最も多く、全体の半数以上を占めていました。



		回答者数	行こうと思っているが、まだ行ったことがない	公共交通機関での来園が不便	居住地から遠い	興味がない	その他(自由記入)
全体		27	51.9%	18.5%	14.8%	3.7%	11.1%
性別	男性	9	55.6%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%
	女性	18	50.0%	22.2%	16.7%	0.0%	11.1%
年齢別	20歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	7	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%
	50歳代	9	55.6%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%
	60歳代	5	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	70歳代	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	5	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	小倉南区	5	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	4	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	八幡西区	8	75.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	戸畑区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問５－６ 自然共生サイト（環境省）や OECM は、2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標「30 by 30（サーティ・バイ・サーティ）の達成に貢献するものです。あなたは、「30 by 30」を知っていますか

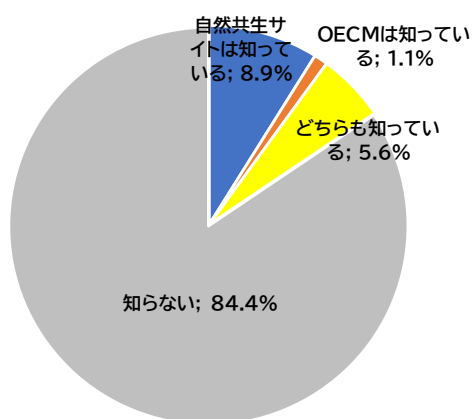
「30by30」を知っていますかという質問では、「知らない」と答えた人が最も多く、全体の 90%を占めていました。一方、「言葉も意味も知っている」と回答した人は、全体の約 6%ほどで、50 歳代～70 歳代の比較的高い年齢層の人が占めていました。



		回答者数	言葉は知っている	言葉も意味も知っている	知らない
全体		90	4.4%	5.6%	90.0%
性別	男性	40	0.0%	10.0%	90.0%
	女性	50	8.0%	2.0%	90.0%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	100.0%
	30 歳代	13	0.0%	0.0%	100.0%
	40 歳代	18	0.0%	0.0%	100.0%
	50 歳代	22	9.1%	9.1%	81.8%
	60 歳代	23	8.7%	8.7%	82.6%
	70 歳代	10	0.0%	10.0%	90.0%
区別	門司区	12	0.0%	8.3%	91.7%
	小倉北区	20	5.0%	0.0%	95.0%
	小倉南区	17	0.0%	5.9%	94.1%
	若松区	3	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	12	0.0%	16.7%	83.3%
	八幡西区	20	10.0%	5.0%	85.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	83.3%

問５－７ 響灘ビオトープは、福岡県では最初に自然共生サイトや OECM として登録された場所です。あなたは、自然共生サイトや OECM を知っていますか。

「自然共生サイト」や「OECM」を知っていますかという質問では、「知らない」と答えた人が最も多く、全体の約 85%を占めていました。また、どちらかと言えば「OECM」よりも、「自然共生サイト」の方が多く知られている傾向が見られました。問５－６と同様に、50 歳代～70 歳代の年齢層が「知っている」と回答する傾向が見られました。



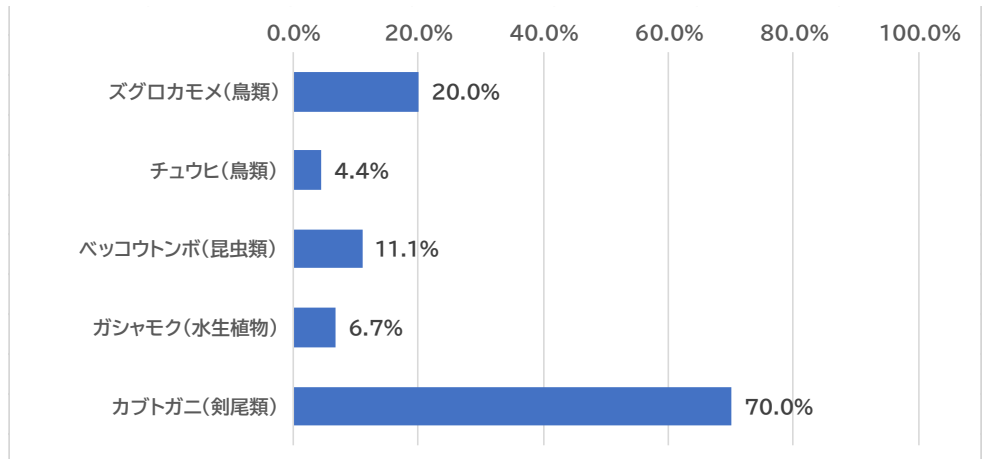
		回答者数	自然共生サイトは知っている	OECMは知っている	どちらも知っている	知らない
全体		90	8.9%	1.1%	5.6%	84.4%
性別	男性	40	2.5%	2.5%	7.5%	87.5%
	女性	50	14.0%	0.0%	4.0%	82.0%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%
	30 歳代	13	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40 歳代	18	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	50 歳代	22	27.3%	0.0%	4.5%	68.2%
	60 歳代	23	0.0%	4.3%	13.0%	82.6%
	70 歳代	10	10.0%	0.0%	10.0%	80.0%
区別	門司区	12	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%
	小倉北区	20	5.0%	0.0%	0.0%	95.0%
	小倉南区	17	11.8%	0.0%	0.0%	88.2%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	12	8.3%	8.3%	16.7%	66.7%
	八幡西区	20	10.0%	0.0%	10.0%	80.0%
	戸畑区	6	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

北九州市では、希少生物の保護・保全及び特定外来生物に対する市民啓発等を行っています。

問6-1 希少生物についてお尋ねします。北九州市で生息等が確認されている希少生物について、知っているものを選択してください(複数選択可)。

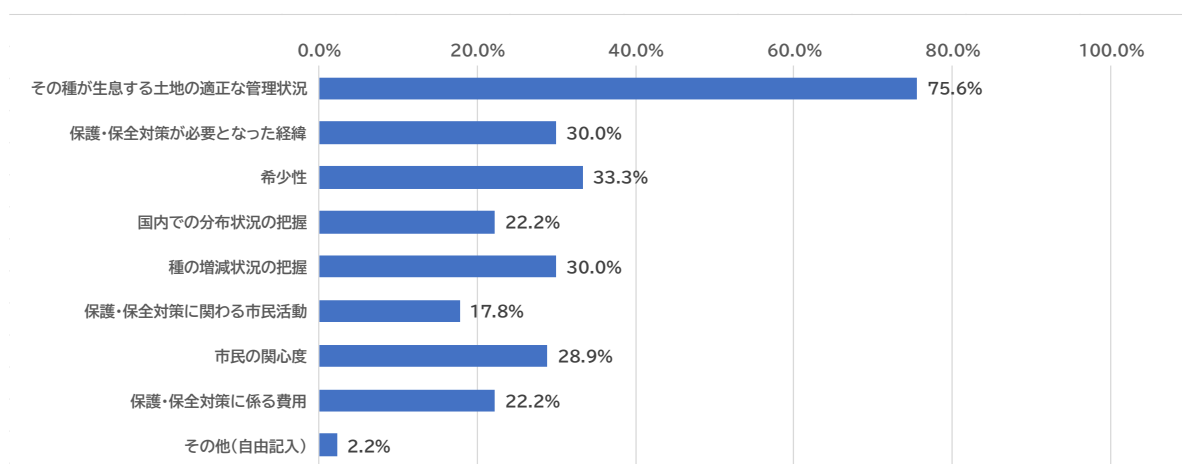
知っている希少生物について質問したところ、最も多い回答はカブトガニ(70.0%)でした。次いで、ズグロカモメ(20.0%)、ベッコウトンボ(11.1%)等があげられていました。小倉南区の曽根干潟は全国でも有数のカブトガニ生息地で、それが市民にも広く浸透しているとうかがえます。



		回答者数	ズグロカモメ(鳥類)	チュウヒ(鳥類)	ベッコウトンボ(昆虫類)	ガシャモク(水生植物)	カブトガニ(剣尾類)
全体		90	20.0%	4.4%	11.1%	6.7%	70.0%
性別	男性	40	15.0%	7.5%	15.0%	5.0%	80.0%
	女性	50	24.0%	2.0%	8.0%	8.0%	62.0%
年齢別	20歳代	4	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	100.0%
	30歳代	13	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%	61.5%
	40歳代	18	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	55.6%
	50歳代	22	40.9%	0.0%	9.1%	9.1%	63.6%
	60歳代	23	21.7%	13.0%	17.4%	4.3%	87.0%
	70歳代	10	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%	70.0%
区別	門司区	12	16.7%	0.0%	8.3%	8.3%	66.7%
	小倉北区	20	20.0%	5.0%	15.0%	0.0%	75.0%
	小倉南区	17	5.9%	0.0%	11.8%	11.8%	76.5%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%
	八幡東区	12	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	66.7%
	八幡西区	20	45.0%	5.0%	10.0%	15.0%	70.0%
	戸畑区	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

問6-2 希少生物の保護・保全対策について、重要だと思うものを3つ選択してください。

希少生物の保全対策について重要なことを質問したところ、最も多い回答は「その種が生息する土地の適正な管理状況(75.6%)」でした。このほか、「(その種の)希少性」、「保護・保全対策が必要となった経緯」、「種の増減状況の把握」等があげられていました。

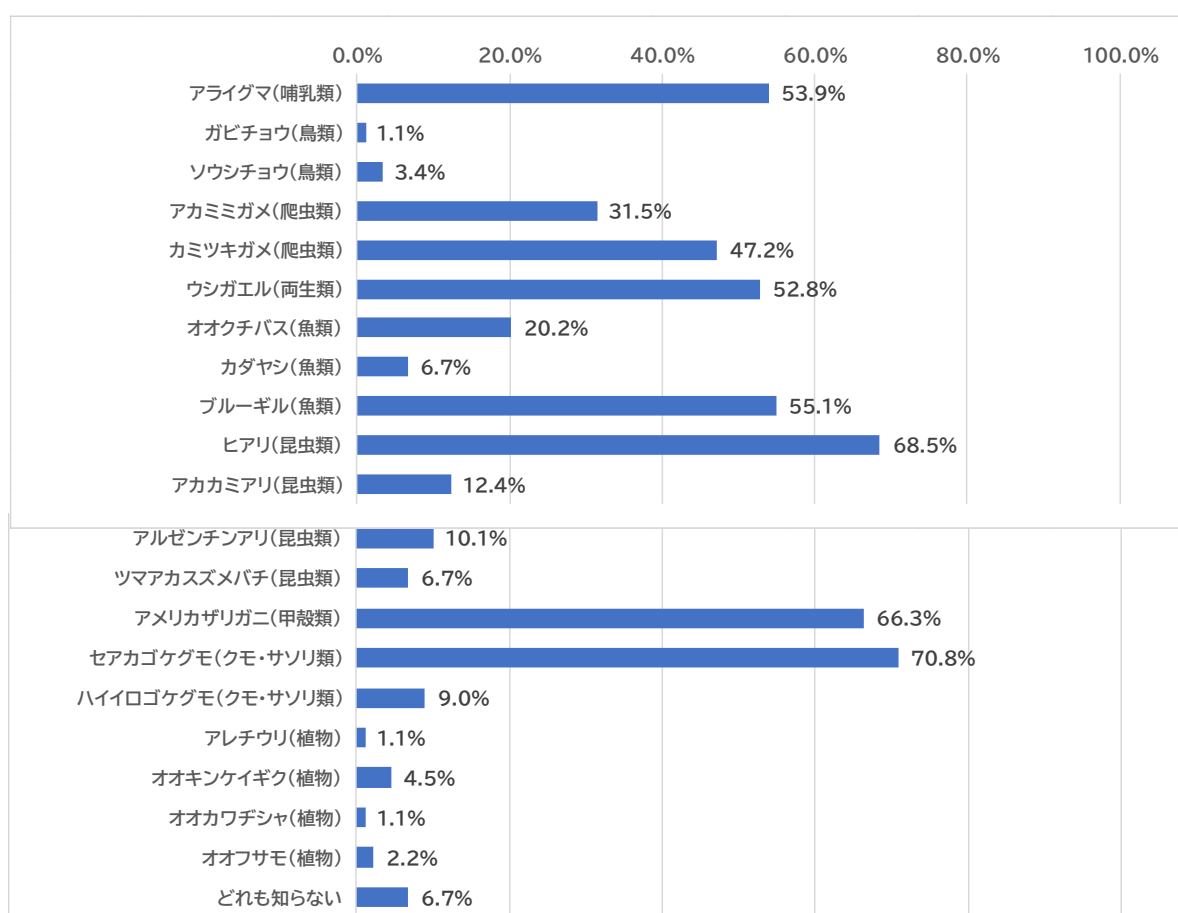


		回答者数	その種が生息する土地の適正な管理状況	保護・保全対策が必要となった経緯	希少性	国内での分布状況の把握	種の増減状況の把握
全体		90	75.6%	30.0%	33.3%	22.2%	30.0%
性別	男性	40	77.5%	30.0%	27.5%	25.0%	30.0%
	女性	50	74.0%	30.0%	38.0%	20.0%	30.0%
年齢別	20歳代	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	30歳代	13	61.5%	30.8%	38.5%	53.8%	23.1%
	40歳代	18	72.2%	33.3%	27.8%	11.1%	27.8%
	50歳代	22	77.3%	27.3%	40.9%	18.2%	36.4%
	60歳代	23	91.3%	30.4%	34.8%	26.1%	34.8%
	70歳代	10	60.0%	30.0%	30.0%	10.0%	20.0%
区別	門司区	12	75.0%	50.0%	33.3%	8.3%	8.3%
	小倉北区	20	75.0%	15.0%	35.0%	35.0%	30.0%
	小倉南区	17	88.2%	23.5%	29.4%	17.6%	47.1%
	若松区	3	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%
	八幡東区	12	100.0%	25.0%	41.7%	8.3%	33.3%
	八幡西区	20	65.0%	40.0%	25.0%	30.0%	30.0%
	戸畑区	6	50.0%	33.3%	50.0%	0.0%	33.3%

		回答者数	保護・保全対策に関わる市民活動	市民の関心度	保護・保全対策に係る費用	その他 (自由記入)
全体		90	17.8%	28.9%	22.2%	2.2%
性別	男性	40	12.5%	35.0%	25.0%	2.5%
	女性	50	22.0%	24.0%	20.0%	2.0%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	30 歳代	13	7.7%	23.1%	23.1%	0.0%
	40 歳代	18	27.8%	22.2%	16.7%	5.6%
	50 歳代	22	22.7%	31.8%	22.7%	0.0%
	60 歳代	23	8.7%	26.1%	17.4%	4.3%
	70 歳代	10	20.0%	40.0%	30.0%	0.0%
区別	門司区	12	8.3%	41.7%	41.7%	0.0%
	小倉北区	20	5.0%	50.0%	20.0%	0.0%
	小倉南区	17	29.4%	17.6%	11.8%	0.0%
	若松区	3	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12	8.3%	25.0%	33.3%	0.0%
	八幡西区	20	35.0%	15.0%	25.0%	5.0%
	戸畑区	6	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%

問6－3 特定外来生物についてお尋ねします。北九州市で生息等が確認されている特定外来生物について、知っているものを選択してください。(複数選択可)

知っている外来生物について質問したところ、最も多い回答はセアカコケグモ(クモ類)でした。このほか、ヒアリ(昆虫類)、アメリカザリガニ(甲殻類)、ブルーギル(魚類)、ウシガエル(両生類)、アライグマ(哺乳類)等があげられていました。
一方、回答数が少ない種類は、ガビチョウ(鳥類)、アレチウリ(植物)、オオカワヂシャ(植物)、オオフサモ(植物)等で、植物の特定外来生物種が知られていない傾向が見られました。



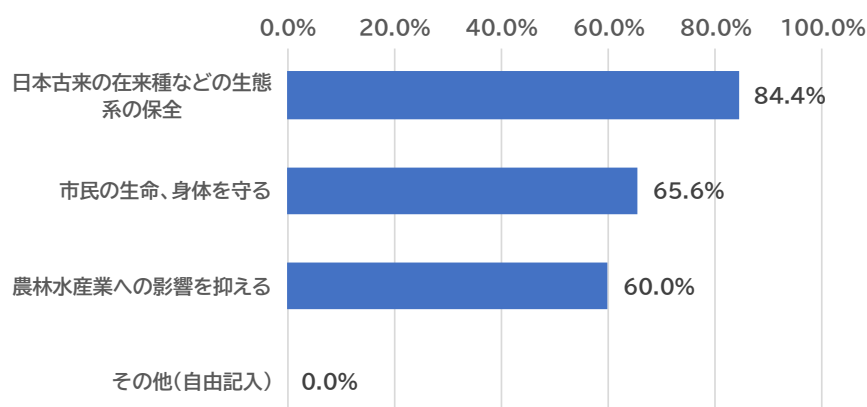
		回答者数	アライグマ (哺乳類)	ガビチョウ (鳥類)	ソウシチョウ (鳥類)	アカミミガメ (爬虫類)	カミツキガメ (爬虫類)	ウシガエル (両生類)
全体		89	53.9%	1.1%	3.4%	31.5%	47.2%	52.8%
性別	男性	40	62.5%	2.5%	7.5%	30.0%	47.5%	65.0%
	女性	49	46.9%	0.0%	0.0%	32.7%	46.9%	42.9%
年齢別	20 歳代	4	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	75.0%
	30 歳代	12	50.0%	0.0%	8.3%	25.0%	33.3%	50.0%
	40 歳代	18	33.3%	0.0%	0.0%	22.2%	38.9%	38.9%
	50 歳代	22	59.1%	0.0%	0.0%	31.8%	50.0%	50.0%
	60 歳代	23	69.6%	4.3%	4.3%	43.5%	78.3%	69.6%
	70 歳代	10	30.0%	0.0%	10.0%	20.0%	10.0%	40.0%
区別	門司区	12	41.7%	0.0%	16.7%	41.7%	50.0%	41.7%
	小倉北区	20	65.0%	0.0%	0.0%	30.0%	55.0%	55.0%
	小倉南区	16	56.3%	0.0%	0.0%	18.8%	50.0%	62.5%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	八幡東区	12	83.3%	0.0%	0.0%	58.3%	50.0%	75.0%
	八幡西区	20	50.0%	5.0%	5.0%	30.0%	45.0%	55.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%

		回答者数	オオクチバス (魚類)	カダヤシ (魚類)	ブルーギル (魚類)	ヒアリ (昆虫類)	アカカミアリ (昆虫類))
全体		89	20.2%	6.7%	55.1%	68.5%	12.4%
性別	男性	40	25.0%	12.5%	65.0%	67.5%	17.5%
	女性	49	16.3%	2.0%	46.9%	69.4%	8.2%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	50.0%	75.0%	0.0%
	30 歳代	12	8.3%	8.3%	50.0%	66.7%	8.3%
	40 歳代	18	11.1%	0.0%	50.0%	77.8%	0.0%
	50 歳代	22	31.8%	4.5%	59.1%	63.6%	13.6%
	60 歳代	23	30.4%	17.4%	65.2%	69.6%	26.1%
	70 歳代	10	10.0%	0.0%	40.0%	60.0%	10.0%
区別	門司区	12	16.7%	8.3%	33.3%	75.0%	16.7%
	小倉北区	20	20.0%	5.0%	65.0%	70.0%	5.0%
	小倉南区	16	31.3%	0.0%	56.3%	56.3%	12.5%
	若松区	3	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	八幡東区	12	33.3%	8.3%	66.7%	75.0%	25.0%
	八幡西区	20	15.0%	15.0%	65.0%	80.0%	10.0%
	戸畑区	6	0.0%	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%

		回答者数	アルゼンチンアリ (昆虫類)	ツマアカスズメバチ (昆虫類)	アメリカザリガニ (甲殻類)	セアカゴケグモ(クモ・サソリ類)	ハイロゴケグモ(クモ・サソリ類)
全体		89	10.1%	6.7%	66.3%	70.8%	9.0%
性別	男性	40	15.0%	12.5%	75.0%	65.0%	12.5%
	女性	49	6.1%	2.0%	59.2%	75.5%	6.1%
年齢別	20 歳代	4	25.0%	0.0%	75.0%	75.0%	25.0%
	30 歳代	12	8.3%	8.3%	58.3%	66.7%	16.7%
	40 歳代	18	5.6%	0.0%	38.9%	77.8%	0.0%
	50 歳代	22	13.6%	4.5%	68.2%	77.3%	4.5%
	60 歳代	23	13.0%	17.4%	87.0%	69.6%	17.4%
	70 歳代	10	0.0%	0.0%	70.0%	50.0%	0.0%
区別	門司区	12	8.3%	8.3%	50.0%	75.0%	8.3%
	小倉北区	20	10.0%	5.0%	80.0%	70.0%	15.0%
	小倉南区	16	6.3%	0.0%	75.0%	68.8%	0.0%
	若松区	3	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%	0.0%
	八幡東区	12	8.3%	16.7%	83.3%	75.0%	16.7%
	八幡西区	20	15.0%	10.0%	55.0%	75.0%	10.0%
	戸畑区	6	16.7%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%

		回答者数	アレチウリ (植物)	オオキンケイギク (植物)	オオカワヂシャ (植物)	オオフサモ (植物)	どれも知らない
全体		89	1.1%	4.5%	1.1%	2.2%	6.7%
性別	男性	40	2.5%	5.0%	2.5%	5.0%	5.0%
	女性	49	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	8.2%
年齢別	20 歳代	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
	30 歳代	12	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%
	40 歳代	18	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50 歳代	22	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%	4.5%
	60 歳代	23	4.3%	13.0%	0.0%	4.3%	0.0%
	70 歳代	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
区別	門司区	12	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%
	小倉北区	20	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	小倉南区	16	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	若松区	3	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	20	0.0%	5.0%	0.0%	5.0%	5.0%
	戸畑区	6	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%

問6－4 特定外来生物対策に取り組む理由は何だと思いますか（複数選択可）



特定外来生物対策について質問したところ、最も多い回答は「日本古来の在来種などの生態系の保全(84.4%)」でした。次いで、「市民の生命、身体を守る(65.6%)」、「農林水産業への影響を抑える(60.6%)」が、ほぼ同じ程度で続きました。なお、その他(自由記入)の意見は、ありませんでした。

年齢別にみると、30 歳代では、最も多い回答が「市民の生命、身体を守る(92.3%)」と高くなっていました。その他の年代は、概ね同様の傾向がみられました。

		回答者数	日本古来の在来種などの生態系の保全	市民の生命、身体を守る	農林水産業への影響を抑える	その他(自由記入)
全体		90	84.4%	65.6%	60.0%	0.0%
性別	男性	40	90.0%	50.0%	60.0%	0.0%
	女性	50	80.0%	78.0%	60.0%	0.0%
年齢別	20 歳代	4	75.0%	50.0%	75.0%	0.0%
	30 歳代	13	76.9%	92.3%	61.5%	0.0%
	40 歳代	18	83.3%	66.7%	50.0%	0.0%
	50 歳代	22	86.4%	63.6%	59.1%	0.0%
	60 歳代	23	87.0%	52.2%	65.2%	0.0%
	70 歳代	10	90.0%	70.0%	60.0%	0.0%
区別	門司区	12	83.3%	75.0%	41.7%	0.0%
	小倉北区	20	85.0%	55.0%	65.0%	0.0%
	小倉南区	17	76.5%	76.5%	64.7%	0.0%
	若松区	3	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%
	八幡東区	12	100.0%	66.7%	75.0%	0.0%
	八幡西区	20	85.0%	60.0%	55.0%	0.0%
	戸畑区	6	83.3%	50.0%	33.3%	0.0%

7 北九州市の自然環境に関する取組等に対するご意見

問7 北九州市の自然環境に関する取組等についてのご意見等がございましたら、ご記入願います。

【自然環境および生物多様性に関する現状】

- 外来種の侵入対策を重視してほしい。
- 北九州は適度な都会でありながら、ホテルが観れるなど、自然あふれる都市だと思う。子どもがいる家庭にとっては、子どもが安心して外で遊べる環境があることはとても大事だと思う。今後は子どもが安心して遊べる環境保持に協力していきたいと思った。
- 外来種怖いと感じた。
- 県外から移住しましたが、希少生物が存在することを北九州に住むまで知りませんでした。
- 太陽光発電、風力発電なども大事だと思いますが、自然を壊してまですることではないと思います。自然環境を守ることがとても大切なことです。
- 畑ダムから隧道への散策木道や合馬のサイクリング道路などメンテされず朽ち果ていたり、道原サイクリングターミナルは閉鎖。人口減少に伴い里山の維持は難しい。

【北九州市の生物多様性に関する取組について】

- 自然環境に関する取組について啓発活動が少ないようにおもわれます。もっと情報発信について市政だより等を活用し発信してほしいです。
- 何でも大事にすることは重要とは思いますが、北九州市として特徴が持てるものに力を入れて欲しい。「二兎を追う者は一兎をも得ず」と思います。自然環境部署はよく知らないが各部署で専門知識不足が多いと思う。市の転勤目的もあるが慣れれば転勤で、オールマイティな人間はそんなに多くは要らないと思う。慣れても改革意識は大事で専門的に積極的に活躍する配置にして欲しい。責任感がなくて単に勤めている人を見受ける。これは民間の事業の場合は繁栄はしない。このような状態を親方日の丸と言いますが、体質を改め、活躍して頂きたい。民間の立場で専門的に知識のある人材を育てて頂きたい。部署が変わると「変わったばかりで今から勉強します」と聞きます。民間でこの言葉を言われたら上長が呼び付けられる。世間と対応力の差を特に感じます。しかしながら、時々には凄く勉強していると感心する人もいます。人により違いが大きいと特に感じる。
- 自然環境に関する取り組みの活動を身近で行っている人を知らない。関心がないのではなく 海や緑 山や川があるのが当たり前だと思っているのだろうなと感じている。それはそれで共存出来ていていいなと転居組の自分は思っている。危惧される部分があるから環境に関する取り組みをなさっているのであろうが その危機感は生活している中で感じないし 伝わってこない。また熱心に活動をしている方には申し訳ないがいざ何か活動をすると思うとちょっと重たく 堅苦しく面倒だなと思ってしまう。
- 北九州市に生態系について学べる学校があれば、これからの将来を担う子供達が学びを深められる居場所作りになり、学びが仕事となり地域の活性化に繋がると良いなと思いました。
- 自然環境といいながら、田畑、山林を潰して宅地開発する意味が分からない。
- 環境方針を出して環境保全に努めている姿勢は素晴らしいと思います。
- 公式 SNS や市報に定期的に情報を出す必要性。市 TOP ページ(バーナーなど)に定期的に情報を出す必要性。

- 人間の好きな動植物だけを保護しようとする活動は生態系を破壊する活動で、反環境保護活動であることを広めてほしい。
- 全体的に市民の関心では低いと思います。市政だよりや特集号などを組んで市民にもっと PR をしていただければ助かります。
- 北九州市での自然保護活動をどんなふうに行っているのか知りたい。
- もっと県外の方にも北九州の豊かな自然環境を認知してもらい街のイメージアップや観光に繋がる機会があれば良いと思います。
- 開発の規制、乱獲に対する規制。
- 市民ボランティアをどんどん募り、海、山、川など清掃をしていくといいです。私もできることは、参加したいです。
- 正直情報が伝わってこないです。自分自身がアクセスしないとわからないです。
- 生物多様性戦略や響灘ビオトープ、環境基本計画等の取り組みは無論大事だが、もっと地道な市民レベルの草の根的取り組みにも光を当てて欲しい。市民団体やボランティアによる活動では里山の管理や河川や海岸の清掃、外来種駆除など、住民が主体となって自然を守る活動が広がっていると聞く。地域イベントなどで次世代への意識づけが進んでいるようだ。こうした草の根活動は、行政を補完するだけでなく、地域における自然と人のつながりを強める重要な役割を果たしているはずである。身近な自然を守る意識が市民レベルで自然に育つことが何より重要であろう。行政の取り組みにとっても不可欠の基盤となるはずである。
- 市民に広く周知すべきと考える。
- 綺麗な街、北九州。豊かな自然を後世に残すため、私たちにできることに積極的に取り組みたいです。
- 私自身が北九州市の自然環境保全の取り組みをあまり知らないことは反省すべきことと思いますが、決して興味がないわけではなく、響灘ビオトープに一度は行ってみたい気持ちはあります。一方で、北九州市の取り組みのアピールが足りないように感じています。
- 天候や環境の変化、人口減少にともない、自然環境への取り組みは一層重要になると考える。時間もかかることだと思うので、北九州市の取り組みをさらに進めて、国のモデルケースのようになれるといいと感じている。

【その他のご意見等】

- 知らない事が多くあり、私自身勉強になりました。ありがとうございました。
- アンケート内に知らないことがありました。きっかけにして、もっと勉強しようと思いました。
- 自然でも街中でも、とにかくゴミのポイ捨てが多過ぎる。本来は家庭での教育が必須だが、北九州市は特に意識が低い家庭が多いと思う。なので、シンガポール並みに罰金や罰則を厳しく事を目指して欲しい。そうすると海や山等を守る事に繋がっていくと思う。
- 年々気温が上がる事やクマなどの被害など生態系が崩れていることはわかっていて、何かしないかと思っていますがどこから始めたらいいのか分からず時間だけが過ぎていくように思います。
- 別に無し
- どれだけの人が 身近に自然環境に関心を持っているかなあとと思います。テレビで流れていても あ？あ？と 見てるだけでは…。
- 親近感が実際には湧いて無いのでは。毎日毎日忙しく働いて一日を過ごして居る方々には…。

IV 全体考察

北九州市は、豊かな自然環境を将来にわたって守り、市民と自然のふれあいを推進することなどを目的として、平成17年度に「北九州市自然環境保全基本計画」を策定、平成22年度には、この基本計画の改定として「北九州市生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の確保に向けた様々な取組を進めてきました。

令和4年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）や、令和5年3月に策定された新国家戦略の内容を踏まえ、令和7年5月に「北九州市生物多様性戦略 2025-2030」を策定し、「アーバンネイチャー」と「ネイチャーポジティブ」による「都市と自然との共生」を実現するため、様々な取組を進めています。

「北九州市生物多様性戦略 2025-2030」の進捗を確認するため、北九州市の自然環境や生物多様性の大切さ、自然とふれあいや生きものを守る活動について、市政モニターを対象に調査を実施したものです。

1 北九州市の自然環境

「自然に対して関心がありますか」との問いに対し、「ある」と回答した人が全体の8割を占めており、市民の自然に対する関心は高いことがわかりました。

市民が北九州市の自然をイメージする場所としては、「平尾台」が最も多い結果でした。「平尾台」は国立公園やカルスト台地といった全国的にも希少な場所であり、北九州市の代表的な自然として広く市民に認知されていることがわかりました。このほか、「皿倉山」、「山田緑地」等の回答が多く、「皿倉山」は北九州のシンボリックな場所、「山田緑地」は身近な自然を感じる場所として、市民に親しまれている印象でした。

北九州の生きものについての質問には、「ホタル」との回答が最多でした。ホタルは成虫の発生が初夏のみと季節が限定されていますが、それでもなお、市民には身近な生きものとして認知されていました。以前から、市民とともに北九州市全域でホタル保全活動が続けられていることも一要因と考えられます。

このほか、自由回答では、北九州市の自然として、「海」、「山」、「食べ物」、「公園」、「景観」、「環境」等といった、多くの意見があがっていました。北九州市内には市民が自然を感じる様々な場所や物、地域が存在していることが示されました。

2 生物多様性について

「生物多様性」について質問したところ、「言葉も意味も知っている」との回答は全体の約 30%で、「言葉は知っている」と合わせると全体の約 75%であり、言葉は広まっているが、その意味がまだ浸透する過程であることがうかがえます。

生物多様性を知っている人へ質問した「生物多様性の重要性」については、約 7 割が重要であることを知っており、テレビやインターネット、新聞等、様々なメディアを通じて情報を得ていたことがわかりました。また、生物多様性が失われることの危機についても、概ね理解されており、「生物多様性」の言葉だけでなく、その意味、重要性の浸透が少しずつ進んでいると言えます。

「自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加しているか」との質問に対しては、約 6 割の人が「特に何もしていない」と回答しており、実際の行動や活動への参加に対しては壁が高い印象でした。一方、約 3 割の人が「日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけている」との回答があり、活動等に参加しなくとも自分たちにできることは心がけているといった前向きな状況がわかりました。また、「特に何もしていない」と回答した人のうち、約 5 割の人が「活動に参加したいが具体的に何をすればよいかわからない」と回答しており、ポータルサイトによる情報提供やネイチャーポジティブネットワークの活用により、より多くの市民が生物多様性保全への行動や活動参加につながることを示唆されました。

3 北九州市生物多様性戦略

「北九州市生物多様性戦略 2025-2030」については、約 9 割の人が「知らない」と回答していました。また、世界的な目標である「ネイチャーポジティブ」について質問したところ、約 8 割の人が「知らない」と回答しており、北九州市の生物多様性戦略やネイチャーポジティブについて、まだまだ市民への浸透が低いことが明らかとなりました。市民や市内企業に向けて、より一層の P R 活動が必要であることがわかりました。

4 北九州市の自然環境保全の取組

北九州市が取り組んでいる自然環境保全について質問したところ、最も多い回答が「知らない」であり、全体の約半数を占めていました。市の取組は、あまり知られていないのが現状でした。一方、知っているとの回答では、「曽根干潟の環境調査」や「カブトガニ観察ツアー」等の取組があげられていました。また、令和 7 年 4 月に立ち上げた北九州市の自然に関するポータルサイトについては、その認知度が低く、ポータルサイトをより活用することで、ポータルサイトだけで

なく市の取組に関する市民の認知度、理解も広がることが期待されます。

5 響灘ビオトープ

「響灘ビオトープ」については、「知っている」と回答した人が全体の約 65% を占め、半数を大きく上回っており、その存在を市民に知られるようになったと言えます。また、「知っている」と回答した人のうち、「響灘ビオトープに行ったことがある」と回答した人は約半数程度にとどまりました。行ったことがない理由としては、「行こうと思っているがまだ行ったことがない」が半数を占めたほか、公共交通機関が不便であることなどがあげられています。響灘ビオトープの入場者数増加には、その魅力をもっと向上させる必要があると言えます。

世界的な目標の一つである「30by30」は「知らない」と回答した人が全体の約 90%、響灘ビオトープが登録された「自然共生サイト」や「OECM」については、「知らない」との回答が約 85%を占めており、まだまだ認知度は低いと言えます。

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

北九州市の希少生物としては、カブトガニが最も知られており（全体の 70%）、希少種の保全に重要なことは、「その種が生息する土地の適正な管理状況」との回答が最も多くなりました。北九州市には希少種が生息しており、その希少種の保全が大切であること、重要であることが市民に広く理解されている結果と言えます。

特定外来生物については、よく知られているアカミミガメやアメリカザリガニだけでなく、セアカコケグモやヒアリといった種があげられていました。また、特定外来生物対策に取り組む理由として「生態系の保全」や「市民の生命、身体を守る」等の回答が多く、特定外来生物について多くの市民が関心を持っていることがうかがえました。

【市政モニターにすること】

総務市民局広聴課（TEL：093-582-2527）

【アンケートにすること】

環境局ネイチャーポジティブ推進課（TEL：093-582-2239）